

- 1 (1) 正の整数  $a$  と  $b$  について等式 
$$\sqrt[3]{301\sqrt{a}-319\sqrt{b}}=\sqrt{a}-\sqrt{b}$$
 が成立している。実数  $\sqrt{ab}$  が整数でないとき  $a = \boxed{\text{アイ}}$  である。
- (2) 実数  $\alpha$  が  $0 \leq \alpha < 2\pi$  の範囲にあり、 $\beta$  が  $0 \leq \beta \leq \frac{\pi}{2}$  の範囲にあるとき 
$$(6\cos\alpha \cdot \sqrt{\cos\beta} + \sin\alpha \cdot \sqrt{15\sin\beta})^2$$
 の最大値は  $\boxed{\text{ウエ}}$  である。
- (3) 不等式 
$$\sqrt[3]{m+1} - \sqrt[3]{m} < \frac{1}{48}$$
 を満たす正の整数  $m$  の最小値は  $\boxed{\text{オカ}}$  である。
- (4) 不等式 
$$(\sqrt[3]{n+1})^4 - (\sqrt[3]{n})^4 > 40$$
 を満たす正の整数  $n$  の最小値は  $\boxed{\text{キクケコサ}}$  である。

解説

(1) 両辺を3乗すると 
$$\sqrt[3]{301\sqrt{a}-319\sqrt{b}} = \sqrt{a}-\sqrt{b}$$
 
$$301\sqrt{a}-319\sqrt{b} = (\sqrt{a}-\sqrt{b})^3$$
 
$$\therefore 301\sqrt{a}-319\sqrt{b} = a\sqrt{a}-3a\sqrt{b}+3b\sqrt{a}-b\sqrt{b}$$
 
$$\therefore (a+3b-301)\sqrt{a} = (3a+b+319)\sqrt{b} \dots\dots\dots \textcircled{1}$$
 
$$\therefore (a+3b-301)\sqrt{ab} = (3a+b+319)b$$

ここで、 $a+3b-301 \neq 0$  とすると

$$\sqrt{ab} = \frac{(3a+b+319)b}{a+3b-301}$$

となる。

このとき、右辺が有理数より、左辺も有理数となるが、 $a, b$  は正の整数より左辺は分母に整数をもたない。

よって、右辺の分子が正より、 $a+3b-301=1$  となる。

このとき、右辺は整数となるので、左辺も整数となるが、 $\sqrt{ab}$  が整数とならないに反する。

よって、 $\textcircled{1}$  より、
$$\begin{cases} a+3b-301=0 \\ 3a+b+319=0 \end{cases}$$
 となる。

これを解くと、 $a=82, b=73$

(2) 
$$\cos\alpha \cdot 6\sqrt{\cos\beta} + \sin\alpha \cdot \sqrt{15\sin\beta} = \begin{pmatrix} \cos\alpha \\ \sin\alpha \end{pmatrix} \cdot \begin{pmatrix} 6\sqrt{\cos\beta} \\ \sqrt{15\sin\beta} \end{pmatrix}$$
 より

$$\vec{a} = \begin{pmatrix} \cos\alpha \\ \sin\alpha \end{pmatrix}, \vec{b} = \begin{pmatrix} 6\sqrt{\cos\beta} \\ \sqrt{15\sin\beta} \end{pmatrix}$$
 とおくと

$$|\vec{a}|^2 = 1$$

$$|\vec{b}|^2 = 36\cos\beta + 15\sin\beta = 39\sin(\beta+\phi) \leq 39$$

(ただし、 $\phi$  は  $\cos\phi = \frac{5}{13}, \sin\phi = \frac{12}{13}$  を満たす鋭角)

となる。よって、 $\vec{a}$  と  $\vec{b}$  のなす角を  $\theta$  ( $0 \leq \theta \leq \pi$ ) とすると

(与式) 
$$(\vec{a} \cdot \vec{b})^2 = (|\vec{a}| \cdot |\vec{b}| \cos\theta)^2 \leq |\vec{a}|^2 \cdot |\vec{b}|^2 = 39$$

等号は、 $\cos\theta = \pm 1$  かつ、 $|\vec{b}|^2 = 39$  のとき

つまり、 $\vec{a} \parallel \vec{b}$  かつ、 $\beta+\phi = \frac{\pi}{2}$  ( $\because 0 < \beta+\phi < \pi$ ) のとき成立する。

よって、 $\beta = \frac{\pi}{2} - \alpha$  より

$$\vec{b} = \begin{pmatrix} 6\sqrt{\cos(\frac{\pi}{2}-\phi)} \\ \sqrt{15\sin(\frac{\pi}{2}-\phi)} \end{pmatrix}$$

$$= \begin{pmatrix} 6\sqrt{\sin\phi} \\ \sqrt{15\cos\phi} \end{pmatrix}$$

$$= \begin{pmatrix} 6\sqrt{\frac{12}{13}} \\ \sqrt{15 \cdot \frac{5}{13}} \end{pmatrix}$$

$$= \begin{pmatrix} 12\sqrt{\frac{3}{13}} \\ 5\sqrt{\frac{3}{13}} \end{pmatrix}$$

このとき、 $\vec{a} \parallel \vec{b}$  より、 $\vec{a} = k\vec{b}$  ( $k$  は実数) とおくと

$$|\vec{a}|^2 = k^2 \cdot |\vec{b}|^2$$

$$\therefore 39k^2 = 1$$

$$\therefore k = \pm \frac{1}{\sqrt{39}}$$

よって、 $\vec{a} = \pm \frac{\vec{b}}{\sqrt{39}}$  より、 $\vec{a} = \begin{pmatrix} \pm \frac{12}{13} \\ \pm \frac{5}{13} \end{pmatrix}$  (複号同順) となる。

以上より、 $\vec{a} = \begin{pmatrix} \pm \frac{12}{13} \\ \pm \frac{5}{13} \end{pmatrix}$  (複号同順)、 $\vec{b} = \begin{pmatrix} 12\sqrt{\frac{3}{13}} \\ 5\sqrt{\frac{3}{13}} \end{pmatrix}$  のとき

最小値 39 となる。

別解  $\beta$  を固定して、 $\alpha$  を変数とみると

$$6\cos\alpha \cdot \sqrt{\cos\beta} + \sin\alpha \cdot \sqrt{15\sin\beta} = \sqrt{36\cos\beta + 15\sin\beta} \sin(\alpha+\phi)$$

(ただし、 $\phi$  は  $\cos\phi = \frac{\sqrt{15\sin\beta}}{\sqrt{36\cos\beta + 15\sin\beta}}, \sin\phi = \frac{6\sqrt{\cos\beta}}{\sqrt{36\cos\beta + 15\sin\beta}}$

を満たす鋭角)  $\dots\dots \textcircled{1}$

よって、(与式)  $= (36\cos\beta + 15\sin\beta) \sin^2(\alpha+\phi)$  となる。

$$0 \leq \alpha < 2\pi, 0 < \phi < \frac{\pi}{2}$$
 より、 $0 \leq \sin^2(\alpha+\phi) \leq 1$

よって、 $\alpha+\phi = \frac{\pi}{2}, \frac{3}{2}\pi$  のとき、最大値  $36\cos\beta + 15\sin\beta$  となる。

$\beta$  を動かすと

$$36\cos\beta + 15\sin\beta = 39 \sin(\beta+\phi')$$

(ただし、 $\phi'$  は  $\cos\phi' = \frac{5}{13}, \sin\phi' = \frac{12}{13}$  を満たす鋭角)

$$0 \leq \beta \leq \frac{\pi}{2}, 0 < \phi' < \frac{\pi}{2}$$
 より、 $0 < \sin(\beta+\phi') \leq 1$

よって、 $\beta+\phi' = \frac{\pi}{2}$  のとき、最大値 39 となる。

このとき、 $\beta = \frac{\pi}{2} - \phi'$  より

$$\begin{cases} \sin\beta = \sin(\frac{\pi}{2} - \phi') = \cos\phi' = \frac{5}{13} \\ \cos\beta = \cos(\frac{\pi}{2} - \phi') = \sin\phi' = \frac{12}{13} \end{cases}$$

$$\textcircled{1}$$
 から 
$$\begin{cases} \sin\phi = \frac{6\sqrt{\frac{12}{13}}}{\sqrt{36 \cdot \frac{12}{13} + 15 \cdot \frac{5}{13}}} = \frac{12}{13} \\ \cos\phi = \frac{\sqrt{15 \cdot \frac{5}{13}}}{\sqrt{36 \cdot \frac{12}{13} + 15 \cdot \frac{5}{13}}} = \frac{5}{13} \end{cases}$$

となるので、 $\alpha = \frac{\pi}{2} - \phi$  のとき

$$\begin{cases} \sin\alpha = \sin(\frac{\pi}{2} - \phi) = \cos\phi = \frac{5}{13} \\ \cos\alpha = \cos(\frac{\pi}{2} - \phi) = \sin\phi = \frac{12}{13} \end{cases}$$

または、 $\alpha = \frac{3}{2}\pi - \phi$  のとき

$$\begin{cases} \sin\alpha = \sin(\frac{3}{2}\pi - \phi) = -\cos\phi = -\frac{5}{13} \\ \cos\alpha = \cos(\frac{3}{2}\pi - \phi) = -\sin\phi = -\frac{12}{13} \end{cases}$$

となる。

以上より、 $\begin{pmatrix} \sin\alpha \\ \cos\alpha \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \pm \frac{12}{13} \\ \pm \frac{5}{13} \end{pmatrix}$  (複号同順)、 $\begin{pmatrix} \cos\beta \\ \sin\beta \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \frac{12}{13} \\ \frac{5}{13} \end{pmatrix}$  のとき

最大値 39 をとる。

別解 コーシー・シュワルツの不等式の利用

$a, b, x, y$  が実数のとき

$$(a^2 + b^2)(x^2 + y^2) \geq (ax + by)^2$$

が成り立つ (等号は  $a : b = x : y$  のとき成立)

よって、 $a = \cos\alpha, b = \sin\alpha, x = 6\sqrt{\cos\beta}, y = \sqrt{15\sin\beta}$  とすると

$$(\cos^2\alpha + \sin^2\alpha)(36\cos\beta + 15\sin\beta) \geq (\cos\alpha \cdot 6\sqrt{\cos\beta} + \sin\alpha \cdot \sqrt{15\sin\beta})^2$$

$$\therefore (6\cos\alpha \cdot \sqrt{\cos\beta} + \sin\alpha \cdot \sqrt{15\sin\beta})^2 \leq 36\cos\beta + 15\sin\beta$$

$$\therefore (6\cos\alpha \cdot \sqrt{\cos\beta} + \sin\alpha \cdot \sqrt{15\sin\beta})^2 \leq 39\sin(\beta+\phi)$$

(ただし、 $\phi$  は  $\cos\phi = \frac{5}{13}, \sin\phi = \frac{12}{13}$  を満たす鋭角)

等号は  $\cos\alpha : \sin\alpha = 6\sqrt{\cos\beta} : \sqrt{15\sin\beta}$  のとき

つまり、 $6\sin\alpha\sqrt{\cos\beta} = \cos\alpha\sqrt{15\sin\beta} \dots\dots\dots \textcircled{1}$  のとき成立。

また、 $39\sin(\beta+\phi)$  は、 $0 \leq \beta \leq \frac{\pi}{2}, 0 < \phi < \frac{\pi}{2}$  より、 $0 < \sin(\beta+\phi) \leq 1$

よって、 $\beta+\phi = \frac{\pi}{2}$  のとき、最大値 39 をとる。

つまり、 $\beta = \frac{\pi}{2} - \phi$  より

$$\begin{cases} \sin\beta = \sin(\frac{\pi}{2} - \phi) = \cos\phi = \frac{5}{13} \\ \cos\beta = \cos(\frac{\pi}{2} - \phi) = \sin\phi = \frac{12}{13} \end{cases}$$

のとき、 $39\sin(\beta+\phi) \leq 39$  の等号が成立し、最大値 39 をとる。

このとき、 $\textcircled{1}$  より、 $6\sin\alpha\sqrt{\frac{12}{13}} = \cos\alpha\sqrt{15 \cdot \frac{5}{13}}$

$\cos \alpha \neq 0$  より、 $\tan \alpha = \frac{5}{12}$

以上より、 $\begin{pmatrix} \sin \alpha \\ \cos \alpha \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \pm \frac{12}{13} \\ \pm \frac{5}{13} \end{pmatrix}$  (複号同順)、 $\begin{pmatrix} \cos \beta \\ \sin \beta \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \frac{12}{13} \\ \frac{5}{13} \end{pmatrix}$  のとき

すべての等号が成立するので、最大値 39 をとる。

(3)  $\sqrt[3]{m+1} - \sqrt[3]{m} = \int_m^{m+1} \frac{1}{3} x^{-\frac{2}{3}} dx$

また、 $f(x) = \frac{1}{3} x^{-\frac{2}{3}}$  とおくと、 $y = f(x)$  は単調減少で、 $f(64) = \frac{1}{48}$  より

$m = 63$  とすると

$\sqrt[3]{64} - \sqrt[3]{63} = \int_{63}^{64} f(x) dx > \int_{63}^{64} \frac{1}{48} dx = \frac{1}{48}$  ..... ①

$m = 64$  とすると

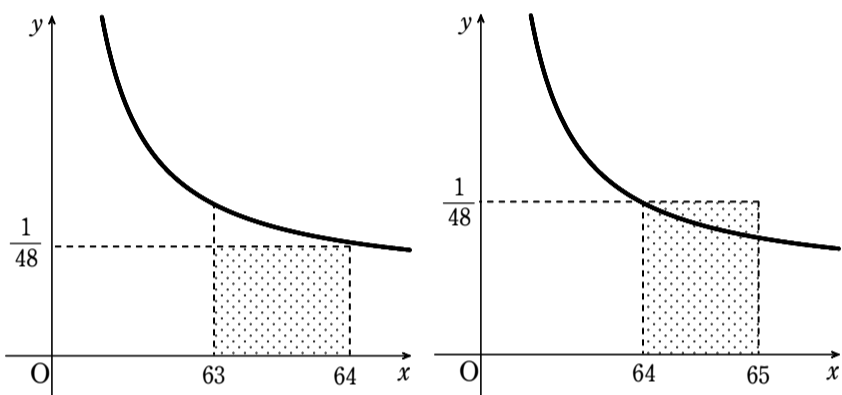
$\sqrt[3]{65} - \sqrt[3]{64} = \int_{64}^{65} f(x) dx < \int_{64}^{65} \frac{1}{48} dx = \frac{1}{48}$  ..... ②

よって、 $m = 64$  となる。

※：定積分より、面積を考える。左辺がグラフと  $x$  軸、 $x = m$ 、 $m+1$  で囲まれて

いる部分の面積で、右辺が底辺が 1、高さが  $\frac{1}{48}$  の長方形の面積を表す。

(①が左図、②が右図)



$y = f(x)$  が単調減少より、面積も  $m$  の増加に伴い単調減少する。

①、②より、 $m = 64$  で初めて  $\frac{1}{48}$  より小さくなったので、 $m = 64$  が答えとなる。

別解  $f(x) = x^{\frac{1}{3}}$  とおくと、 $f'(x) = \frac{1}{3} x^{-\frac{2}{3}} = \frac{1}{3 \cdot \sqrt[3]{x^2}}$

$m < x < m+1$  において、 $f(x)$  は微分可能より

平均値の定理から

$\frac{\sqrt[3]{m+1} - \sqrt[3]{m}}{(m+1) - m} = \frac{1}{3 \cdot \sqrt[3]{c^2}}$  ( $m < c < m+1$ )

を満たす実数  $c$  が少なくとも 1 つ存在する。

よって、 $\sqrt[3]{m+1} - \sqrt[3]{m} = \frac{1}{3 \cdot \sqrt[3]{c^2}}$  ..... ③ より、 $\frac{1}{3 \cdot \sqrt[3]{c^2}} < \frac{1}{48}$  ..... ④

また、 $f'(x)$  は単調減少するので、 $m < c < m+1$  より

$\frac{1}{3 \cdot \sqrt[3]{(m+1)^2}} < \frac{1}{3 \cdot \sqrt[3]{c^2}} < \frac{1}{3 \cdot \sqrt[3]{m^2}}$  ..... ⑤

④、⑤が同時に成り立つとき

よって、 $\frac{1}{3 \cdot \sqrt[3]{(m+1)^2}} < \frac{1}{48}$

$\therefore \sqrt[3]{(m+1)^2} > 16$

$\therefore m+1 > 16^{\frac{3}{2}} = 64$

$\therefore m > 63$

ゆえに、これを満たす最小の自然数  $m$  は、 $m = 64$

逆にこのとき、③、⑤より

$\sqrt[3]{m+1} - \sqrt[3]{m} = \frac{1}{3 \cdot \sqrt[3]{c^2}} < \frac{1}{3 \cdot \sqrt[3]{64^2}} = \frac{1}{48}$

$\therefore \sqrt[3]{m+1} - \sqrt[3]{m} < \frac{1}{48}$

となり、確かに成立する。

よって、求める整数  $n$  の最小値は、 $m = 64$

別解  $\sqrt[3]{m+1} - \sqrt[3]{m} = \frac{(\sqrt[3]{m+1})^3 - (\sqrt[3]{m})^3}{(\sqrt[3]{m+1})^2 + \sqrt[3]{m+1} \cdot \sqrt[3]{m} + (\sqrt[3]{m})^2}$   
 $= \frac{1}{\sqrt[3]{(m+1)^2} + \sqrt[3]{m(m+1)} + \sqrt[3]{m^2}}$

よって、 $\sqrt[3]{m+1} - \sqrt[3]{m} < \frac{1}{48}$  より

$48 < \sqrt[3]{(m+1)^2} + \sqrt[3]{m(m+1)} + \sqrt[3]{m^2}$  ..... ⑤

$< \sqrt[3]{(m+1)^2} + \sqrt[3]{(m+1)^2} + \sqrt[3]{(m+1)^2}$

$\therefore 48 < 3 \cdot \sqrt[3]{(m+1)^2}$

$\therefore 16 < (m+1)^{\frac{3}{2}}$

$\therefore m+1 > 16^{\frac{2}{3}} = 64$

$\therefore m > 63$

よって、⑤が成立するためには  $m > 63$  が必要。

$m = 64$  のとき

⑤の右辺  $= \sqrt[3]{65^2} + \sqrt[3]{65 \cdot 64} + \sqrt[3]{64^2}$   
 $> \sqrt[3]{64^2} + \sqrt[3]{64^2} + \sqrt[3]{64^2}$   
 $= 16 + 16 + 16 = 48$

よって、⑤が成り立つので、 $m$  の最小値は 64

(4)  $(\sqrt[3]{n+1})^4 - (\sqrt[3]{n})^4 = \int_n^{n+1} \frac{1}{4} x^{\frac{1}{3}} dx$

また、 $f(x) = \frac{1}{4} x^{\frac{1}{3}}$  とおくと、 $y = f(x)$  は単調増加で、 $f(27000) = 40$  より

$n = 26999$  とすると

$(\sqrt[3]{27000})^4 - (\sqrt[3]{26999})^4 = \int_{26999}^{27000} f(x) dx < \int_{26999}^{27000} 40 dx = 40$

$n = 27000$  とすると

$(\sqrt[3]{27001})^4 - (\sqrt[3]{27000})^4 = \int_{27000}^{27001} f(x) dx > \int_{27000}^{27001} 40 dx = 40$

よって、 $n = 27000$

別解  $f(x) = x^{\frac{4}{3}}$  とおくと、 $f'(x) = \frac{4}{3} x^{\frac{1}{3}}$

$n < x < n+1$  において、 $f(x)$  は微分可能より

平均値の定理から

$\frac{(n+1)^{\frac{4}{3}} - n^{\frac{4}{3}}}{(n+1) - n} = \frac{4}{3} x^{\frac{1}{3}}$  ( $n < c < n+1$ )

を満たす実数  $c$  が少なくとも 1 つ存在する。

よって、 $(n+1)^{\frac{4}{3}} - n^{\frac{4}{3}} = \frac{4}{3} x^{\frac{1}{3}}$  ..... ③ より、 $\frac{4}{3} x^{\frac{1}{3}} > 40$  ..... ④

また、 $f'(x)$  は単調増加をするので、 $n < c < n+1$  より

$\frac{4}{3} n^{\frac{1}{3}} < \frac{4}{3} x^{\frac{1}{3}} < \frac{4}{3} (n+1)^{\frac{1}{3}}$  ..... ⑤

④、⑤が同時に成り立つとき

よって、 $\frac{4}{3} (n+1)^{\frac{1}{3}} > 40$

$\therefore (n+1)^{\frac{1}{3}} > 30$

$\therefore n+1 > 27000$

$\therefore n > 26999$

ゆえに、これを満たす最小の自然数  $n$  は、 $n = 27000$

逆にこのとき、③、⑤より

$(n+1)^{\frac{4}{3}} - n^{\frac{4}{3}} = \frac{4}{3} x^{\frac{1}{3}} > \frac{4}{3} (27000)^{\frac{1}{3}} = 40$

となり、確かに成立する。

よって、求める整数  $n$  の最小値は、 $n = 27000$

2 第1象限での曲線

$$C: x^4 + y^2 = 25 \quad (x > 0 \text{ かつ } y > 0)$$

と  $x$  軸と  $y$  軸に囲まれた図形を  $F$  とする。

(1) 曲線  $C$  上の点  $(2, 3)$  における接線の  $y$  切片を  $b$  とすると

$$b = \frac{\text{アイ}}{\text{ウ}}$$

である。

(2) 図形  $F$  を  $x$  軸のまわりに 1 回転してできる立体の体積を  $V$  とすると

$$V = \text{エオ} \sqrt{\text{カ}} \pi$$

である。

(3) 図形  $F$  を  $y$  軸のまわりに 1 回転してできる立体の体積を  $W$  とすると

$$W = \frac{\text{キク}}{\text{ケ}} \pi^2$$

である。

解説

(1) 両辺を  $x$  を微分すると

$$4x^3 + 2y \cdot \frac{dy}{dx} = 0$$

$$\therefore \frac{dy}{dx} = -\frac{2x^3}{y} \dots\dots\dots \text{①}$$

よって、 $(2, 3)$  における接線は

$$y = -\frac{2 \cdot 2^3}{3}(x-2) + 3$$

$$\therefore y = -\frac{16}{3}x + \frac{41}{3}$$

よって、 $b = \frac{41}{3}$

(2)  $x^4 + y^2 = 25$  ( $x > 0$  かつ  $y > 0$ ) より

$$y^2 = 25 - x^4 > 0$$

$$\therefore (\sqrt{5} + x)(\sqrt{5} - x)(5 + x^2) > 0$$

$$\therefore -\sqrt{5} < x < \sqrt{5}$$

$$x > 0 \text{ より、} 0 < x < \sqrt{5}$$

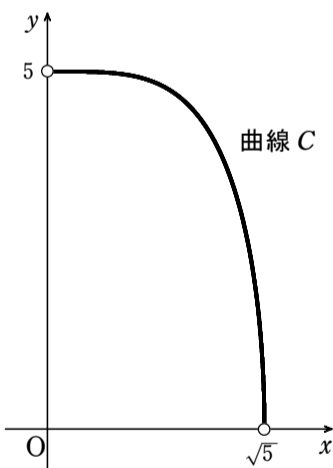
$$\text{また、} x^4 = 25 - y^2 > 0$$

$$\therefore (5 - y)(5 + y) > 0$$

$$\therefore -5 < y < 5$$

$$y > 0 \text{ より、} 0 < y < 5$$

①、 $x > 0$ 、 $y > 0$  より、接線の傾きは常に負となるので、グラフは以下のようになる。



よって、求める体積  $V$  は

$$\begin{aligned} V &= \pi \int_0^{\sqrt{5}} y^2 dx \\ &= \pi \int_0^{\sqrt{5}} (25 - x^4) dx \\ &= \pi \left[ 25x - \frac{1}{5}x^5 \right]_0^{\sqrt{5}} \\ &= \pi \left\{ 25 \cdot \sqrt{5} - \frac{1}{5} \cdot (\sqrt{5})^5 \right\} \\ &= 20\sqrt{5} \pi \end{aligned}$$

参考 グラフに関して

$$x^4 + y^2 = 25 \text{ より}$$

$$y = \sqrt{25 - x^4} \quad (0 < x < \sqrt{5}, 0 < y < 5)$$

$$\text{よって、} y' = \frac{-2x^3}{\sqrt{25 - x^4}} < 0 \text{ より}$$

$0 < x < \sqrt{5}$  で単調減少となる。

(3) 求める体積  $W$  は

$$\begin{aligned} W &= \pi \int_0^5 x^2 dy \\ &= \pi \int_0^5 \sqrt{25 - y^2} dy \\ &= \pi \cdot \frac{25}{4} \pi \\ &= \frac{25}{4} \pi^2 \end{aligned}$$

3 関数

$$f(x) = \sqrt{9 + \frac{19}{9} \sin x}$$

の積分により二つの関数

$$F(x) = \int_0^x f(t) dt, \text{ と } S(x) = \int_0^x f(x+t) dt$$

を定める。

このとき、すべての実数  $a$  について、 $x = a$  における微分係数  $F'(a)$  と  $S'(a)$  は正の実数である。たとえば

$$F'\left(\frac{\pi}{2}\right) = \frac{\text{アイ}}{\text{ウ}} \text{ であり、 } S'\left(\frac{\pi}{2}\right) = \frac{\text{エ}}{\text{オ}}$$

である。したがって、 $S(x)$  の逆関数  $g(x) = S^{-1}(x)$  が存在する。

この関数  $g(x)$  の導関数  $g'(x)$  について

$$g'(0) = \frac{\text{カ}}{\text{キ}}, \lim_{x \rightarrow 0} \frac{g'(x) - g'(0)}{x} = \frac{\text{クケコ}}{\text{サシス}}$$

である。

$$\begin{aligned} \text{よって } g''(0) &= -\frac{3f'(0)}{\{f(0)\}^3} \\ &= -\frac{3 \cdot \frac{19}{54}}{3^3} \\ &= \frac{-19}{486} \end{aligned}$$

解説

$$F(x) = \int_0^x f(t) dt \text{ より}$$

$$F'(x) = f(x)$$

$$\text{よって、 } F'\left(\frac{\pi}{2}\right) = f\left(\frac{\pi}{2}\right)$$

$$\begin{aligned} &= \sqrt{9 + \frac{19}{9} \cdot 1} \\ &= \frac{10}{3} \end{aligned}$$

$$S(x) = \int_0^x f(x+t) dt \text{ より}$$

$$x+t = u \text{ とおくと、 } dt = du$$

$$t: 0 \rightarrow x \text{ のとき、 } u: x \rightarrow 2x \text{ となるので}$$

$$S(x) = \int_x^{2x} f(u) du$$

$$\text{よって、 } S'(x) = 2 \cdot f(2x) - f(x) \text{ より}$$

$$\begin{aligned} S'\left(\frac{\pi}{2}\right) &= 2 \cdot f(\pi) - f\left(\frac{\pi}{2}\right) \\ &= 2 \cdot 3 - \frac{10}{3} \\ &= \frac{8}{3} \end{aligned}$$

$$y = S(x) \text{ の } x \text{ と } y \text{ を入れ替えると、 } x = S(y)$$

これを  $y$  で微分すると

$$\frac{dx}{dy} = S'(y)$$

$$\therefore \frac{dy}{dx} = \frac{1}{S'(y)}$$

$$\therefore g'(x) = \frac{1}{S'(y)} \dots\dots \textcircled{1}$$

ここで、 $y = S(x)$  と  $y = g(x)$  は  $y = x$  に関して対称で、 $y = S(x)$  は  $S(0) = 0$  より、 $x = 0$  のとき、 $y = 0$  となるので、 $y = g(x)$  も  $x = 0$  のとき、 $y = 0$  となる。

よって、 $\textcircled{1}$  に  $(x, y) = (0, 0)$  を代入して

$$\begin{aligned} g(0) &= \frac{1}{S'(0)} \\ &= \frac{1}{2f(2 \cdot 0) - f(0)} \\ &= \frac{1}{f(0)} \\ &= \frac{1}{3} \end{aligned}$$

$$\text{また、 } \lim_{x \rightarrow 0} \frac{g'(x) - g'(0)}{x} = g''(0) \text{ より}$$

$\textcircled{1}$  を  $x$  で微分して

$$\begin{aligned} g''(x) &= \frac{d}{dx} \left\{ \frac{1}{S'(y)} \right\} \\ &= \frac{d}{dy} \left\{ \frac{1}{S'(y)} \right\} \times \frac{dy}{dx} \\ &= \frac{-S''(y)}{\{S'(y)\}^2} \times \frac{1}{S'(y)} \\ &= \frac{-S''(y)}{\{S'(y)\}^3} \\ &= -\frac{4f'(2x) - f'(x)}{\{2f(2x) - f(x)\}^3} \end{aligned}$$

$(x, y) = (0, 0)$  を代入して

$$g''(0) = -\frac{3f'(0)}{\{f(0)\}^3}$$

$$\text{ここで、 } f'(x) = \frac{\frac{19}{9} \cos x}{2\sqrt{9 + \frac{19}{9} \sin x}} \text{ より、 } f'(0) = \frac{19}{54}$$

4 ある試行の結果起こる三つの事象  $A$  と  $B$  と  $C$  について考える。  
 事象  $A \cup B \cup C$  は全事象であり、それぞれの確率が  

$$P(A) = \frac{5}{8}, P(B) = \frac{3}{8}, P(C) = \frac{5}{16}$$
  
 であるとする。さらに事象  $A \cap B$  と  $C$  は互いに排反であり、 $B$  が起こったときの  $A$  と  $C$  のそれぞれが起こる条件つき確率が  

$$P_B(A) = \frac{5}{8}, P_B(C) = \frac{1}{12}$$
  
 であるとする。

(1) 事象  $A \cap B$  の確率は  $P(A \cap B) = \frac{\text{アイ}}{\text{ウエ}}$  であり、 $A$  が起こったときの  $B$  の起こる条件つき確率は  $P_A(B) = \frac{\text{オ}}{\text{カ}}$  である。

(2) 事象  $B \cup C$  の確率は  $P(B \cup C) = \frac{\text{キク}}{\text{ケコ}}$  であり、 $\bar{C}$  が起こったときの  $B$  が起こる条件つき確率は  $P_{\bar{C}}(B) = \frac{\text{サ}}{\text{シ}}$  である。

(3) 事象  $A \cap C$  の確率は  $P(A \cap C) = \frac{\text{ス}}{\text{セソ}}$  であり、 $C$  が起こったときの  $A \cup B$  の起こる条件つき確率は  $P_C(A \cup B) = \frac{\text{タ}}{\text{チ}}$  である。

解説

(1)  $P_B(A) = \frac{P(A \cap B)}{P(B)}$  より

$$P(A \cap B) = P_B(A) \times P(B) = \frac{5}{8} \times \frac{3}{8} = \frac{15}{64}$$

$$P_A(B) = \frac{P(A \cap B)}{P(A)} = \frac{15}{64} \div \frac{5}{8} = \frac{3}{8}$$

(2)  $P_B(C) = \frac{P(B \cap C)}{P(B)}$  より

$$P(B \cap C) = P_B(C) \times P(B) = \frac{1}{12} \times \frac{3}{8} = \frac{1}{32}$$

$$\begin{aligned} \text{よって、} P(B \cup C) &= P(B) + P(C) - P(B \cap C) \\ &= \frac{3}{8} + \frac{5}{16} - \frac{1}{32} \\ &= \frac{21}{32} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{また、} P(\bar{C}) &= 1 - P(C) \\ &= 1 - \frac{5}{16} \\ &= \frac{11}{16} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} P(\bar{C} \cap B) &= P(B) - P(B \cap C) \\ &= \frac{3}{8} - \frac{1}{32} \\ &= \frac{11}{32} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{よって、} P_{\bar{C}}(B) &= \frac{P(\bar{C} \cap B)}{P(\bar{C})} \\ &= \frac{11}{32} \div \frac{11}{16} \\ &= \frac{1}{2} \end{aligned}$$

(3)  $A \cup B \cup C$  が全事象より、 $P(A \cup B \cup C) = 1$

$A \cap B$  と  $C$  が排反より、 $P(A \cap B \cap C) = 0$  より

$$P(A \cup B \cup C) = P(A) + P(B) + P(C) - \{P(A \cap B) + P(B \cap C) + P(C \cap A) - P(A \cap B \cap C)\} \text{ から}$$

$$1 = \frac{5}{8} + \frac{3}{8} + \frac{5}{16} - \left\{ \frac{15}{64} + \frac{1}{32} + P(C \cap A) - 0 \right\}$$

$$\therefore P(A \cap C) = \frac{3}{64}$$

よって、 $P(C \cap (A \cup B)) = P(C \cap B) + P(C \cap A)$

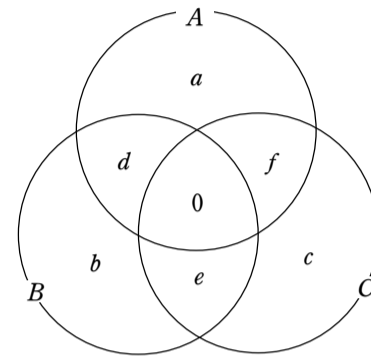
$$\begin{aligned} &= \frac{1}{32} + \frac{3}{64} \\ &= \frac{5}{64} \end{aligned}$$

これより、 $P_C(A \cup B) = \frac{P(C \cap (A \cup B))}{P(C)}$

$$\begin{aligned} &= \frac{\frac{5}{64}}{\frac{5}{16}} \\ &= \frac{1}{4} \end{aligned}$$

別解  $A \cup B \cup C$  が全事象より、 $P(A \cap B \cap C) = 1$

$A \cap B$  と  $C$  が排反より、 $P(A \cap B \cap C) = 0$  より、以下のように設定をする。



(1)  $P(A \cap B) = P_B(A) \times P(B)$

$$\begin{aligned} &= \frac{5}{8} \times \frac{3}{8} = \frac{15}{64} = d \\ &= \frac{15}{64} = d \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} P_A(B) &= \frac{P(A \cap B)}{P(A)} \\ &= \frac{15}{64} \div \frac{5}{8} \\ &= \frac{3}{8} \end{aligned}$$

(2)  $P(B \cap C) = P_B(C) \times P(B)$

$$\begin{aligned} &= \frac{1}{12} \times \frac{3}{8} \\ &= \frac{1}{32} = e \end{aligned}$$

(これより、 $b = P(B) - (d + e) = \frac{7}{64}$ )

$$\begin{aligned} P(B \cup C) &= P(B) + P(C) - P(B \cap C) \\ &= \frac{3}{8} + \frac{5}{16} - \frac{1}{32} \\ &= \frac{21}{32} = b + c + d + e + f \end{aligned}$$

(これより、 $a = 1 - (b + c + d + e + f) = \frac{11}{32}$  となるので、 $f = P(A) - (a + d) = \frac{3}{64}$ )

$$\begin{aligned} P_{\bar{C}}(B) &= \frac{P(\bar{C} \cap B)}{P(\bar{C})} \\ &= \frac{b + d}{1 - P(C)} \\ &= \frac{\frac{7}{64} + \frac{15}{64}}{1 - \frac{5}{16}} \\ &= \frac{1}{2} \end{aligned}$$

(3)  $P(A \cap C) = f = \frac{3}{64}$

$$\begin{aligned} P_C(A \cup B) &= \frac{P(C \cap (A \cup B))}{P(C)} \\ &= \frac{e + f}{P(C)} \\ &= \frac{\frac{1}{32} + \frac{3}{64}}{\frac{5}{16}} \\ &= \frac{1}{4} \end{aligned}$$